

## 前期重点プロジェクトの主な取組

# 前期重点プロジェクトの主な取組

前期基本計画における前期重点プロジェクトに基づき様々な取組を推進してきました。ここでは、その主な取組について紹介します。

## 前期重点 プロジェクト

### 1 ”オールふじみ野”まちづくりプロジェクト

#### ◆プロジェクトのねらい

市民一人ひとりが生きがいをもって暮らし、地域で活躍する場を創出するとともに、自治組織、市民団体（NPO法人等）の活動を支援し、「オールふじみ野」で協働のまちづくりを進めます。

#### ◆前期基本計画での主な取組

##### ①自治組織活動の支援

自治組織の運営費、事業費、集会施設維持管理費等に対して補助金を交付し、主体性を尊重した活動を支援しました。また、自治組織への加入促進を図るため、11月の広報に啓発チラシを折込んだ他、加入促進事業に対して補助金を交付しました。

##### ②市民団体の活動支援

市民活動支援センターでは、市民団体の相談に対する助言、指導をした他、「駅前COCOから便」で情報提供や団体紹介を行いました。また、市民活動交流会や市民活動展示会を開催し、団体相互の交流や活動の周知を図りました。

##### ③市民大学ふじみ野の実施

「市民の学び 地域の学び 知の好循環」をテーマに、各種講座を実施しました。レギュラー講座では、学びを地域への活動に繋げ、地域での活躍のきっかけとなる講座を開催しました。

また、市民が講師となる「学び合い講座」を実施し、市民間の学びの循環の場を提供しました。さらに「特別公開講座」では、参加者を広く募り、市民大学ふじみ野の周知を図りました。

#### ④市民が市政に参加するための機会の提供

ふじみ野市自治基本条例の目的の実現のため、審議会等への公募による市民の委員選任、条例及び計画等の案についてのパブリックコメントの実施、行政評価への市民意見の反映等により、市民が市政に参加するための機会の提供を行いました。

### ◆プロジェクトのねらい

生きがいのための学習や文化・スポーツ、介護予防などの機会を提供し、元気・健康づくりに向けた市民活動を支援することで、市民一人ひとりが元気で健康に暮らし続けることができる基盤を構築します。

### ◆前期基本計画での主な取組

#### ①文化芸術を通じた心の健康づくりの推進

アートフェスタや文化芸術企画提案型事業、アート発信発見プロジェクト等の文化芸術事業を通して、文化の次世代への継承と市民文化の醸成を推進することで市民の心の豊かさや心の健康づくりに寄与しました。

#### ②文化施設の整備

計画的な文化施設の整備により施設環境を充実させるため、旧上福岡公民館は大規模改修によりステラ・イースト多目的棟として令和3年4月1日にリニューアルオープンし、旧大井中央公民館は建替えによりステラ・ウェストとして令和5年10月1日にオープンしました。ステラ・イーストホール棟は旧勤労福祉センターを建替えにより令和7年10月1日のオープンを目指して整備を進めています。

#### ③スポーツイベントなどによる総合的な健康づくり

障がいの有無、性別、年齢等を問わず、参加できる元気・健康フェア、ロードレース大会等を実施し、多くの市民がスポーツに触れられる機会を作ることで健康づくりのきっかけづくりを推進しました。

#### ④東京2020オリンピック・パラリンピック

令和3年に富士見市・三芳町・ふじみ野市特設コースにおいてオリンピック聖火リレーを行いました。また、職員研究会を発足し、オリンピック・パラリンピックの機運醸成につながる企画提案を行いました。

## ⑤健康づくりの拠点となるスポーツ施設の充実

ふじみ野市運動公園においてプール施設等を解体し、平成30年度に3×3バスケットコートやフットサルコート等を整備しました。令和2年度には、福岡江川の対面に、子どもたちが楽しめる子ども広場と、スケートボードやBMXでも利用できる調整池を拡張整備し、それぞれ供用を開始しました。

また、旧埼玉県立福岡高等学校跡地をふじみ野市第2運動公園として整備し、平成30年度に体育館と武道場、令和元年度には多目的球場が完成し、供用を開始しました。

令和3年度には大井東中学校夜間照明設備、令和4年度には駒林体育館の整備・改修を実施し、利用者の利便性向上を図りました。

## ⑥緑内障検診の実施

自覚症状がなく進行する緑内障や、生活習慣や加齢によって起こるさまざまな眼科疾患を早期発見し、早期治療につなげるために、埼玉県初の試みとして令和2年度から年度中に46歳、56歳になる方を対象とした緑内障検診を開始しました。

## ⑦元気・健康マイレージ事業（ふじみん元気・健康ポイント）の実施

市民の健康的な生活習慣を実践するきっかけづくりとして、楽しみながら目標をもって続けられるよう、健康づくりに取り組むとポイントが貯まる仕組みでICTを活用した「元気・健康マイレージ事業」を実施しました。

## ⑧ラジオ体操による健康づくりの推進

誰でも、いつでも、どこでもキーワードに、ラジオ体操の実施を推進しました。特に、身近な場所である自治組織での実施、また、イオン大井店、イオンタウンふじみ野の協力で「イオンdeラジオ体操」を実施しました。

## ⑨「ふじみんぴんしゃん体操」等の介護予防の普及・啓発の取組

介護予防の普及啓発として「ふじみんぴんしゃん体操」の周知・啓発、ぴんしゃんサポーター（介護予防サポーター）の育成を行いました。平成31年4月に介護予防センターを開設し、令和4年3月に大井総合福祉センターにふじみんぴんしゃんホールを設置し、市の東西でぴんしゃんサポーターが活躍し、「ふじみんぴんしゃん体操」に自由に参加できる場をつくり、また、各種介護予防事業を実施しました。

## ⑩元気・健康メニューの認定

市の定める基準を満たし、健康に配慮した市内飲食店が提供するメニューを「元気・健康メニュー」と認定し、併せて元気・健康マイレージ事業において、ポイント付与対象とすることで利用者にポイントを付与し、その認知度を高めました。

### ◆プロジェクトのねらい

地域ぐるみで出産や育児にかかる家庭の負担を軽減し、切れ目のない継続した子育て支援を推進することで、子どもを安心して産み育てられる環境をつくります。

### ◆前期基本計画での主な取組

#### ①ふじみ野市こどもの未来を育む条例の制定

「こどもの権利を守ること」と「こどもの体力向上を図ること」をこどもの豊かな成長を育む両輪になるものと考え、こどもの未来を育むことを目的に、オールふじみ野でこども及び子育て家庭を支援する体制を整え、推進していくための条例を制定しました。

#### ②子育てコンシェルジュ事業の拡大実施

平成30年度に大井子育て支援センターを開設し、保健師が常駐して子育てコンシェルジュ事業の母子保健型を行いました。妊産婦、子育て中の保護者やその家族を対象に、気軽に相談できる身近な施設で、健康や子育てに関する事業に参加でき、子育て情報の提供、相談を行い、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援を提供しました。

#### ③放課後児童クラブの計画的な整備

平成30年度に西原放課後児童クラブ(40人継続)、亀久保放課後児童クラブ(70人→120人)、令和元年度に第3・第4上野台放課後児童クラブ(80人新設)、西放課後児童クラブ(70人→80人)、令和2年度に鶴ヶ丘放課後児童クラブ(60人→80人)、令和3年度に大井放課後児童クラブ(70人→100人)の整備を行い、施設の老朽化、狭あい化を解消し、定員数を190人増やしました。

#### ④保育基盤の確保・充実

公立保育所において、施設の長寿命化を図るため継続的な設備修繕を行い、保育においては、積極的に外部研修に参加するなど質の向上に努めました。また、待機児童の解消に向け、保護者が安心して子どもを預けられる保育施設の充実を図るため、民間保育所、認定こども園等の誘致を行いました。

#### ⑤ふじみ野市立児童発育・発達支援センターの公設化

発育発達に不安のあるお子さん、また保護者様に寄り添い、地域の中で自立に向けて成長できるよう、切れ目のない支援を展開するため、児童発育・発達支援センターを公の施設としました。

相談機能を充実させるとともに、巡回相談を実施するなど関係機関と連携して療育支援体制構築に向けた取組を推進しました。

◆プロジェクトのねらい

快適で魅力のある学びの場を創出することで、次代を担う子どもたちの学ぶ意欲と確かな学力を育みます。

◆前期基本計画での主な取組

①地域協働学校の取組による学校・家庭・地域の連携の推進

地域協働学校指定校は、令和2年度に19校全校指定することができました。また、学校評価の地域協働学校への満足度は80%の目標値に対して、10ポイント以上上回りました。

②地域学校協働活動の推進による学校を核としたまちづくりの推進

令和4年度から各小中学校区に地域コーディネーターを配置し、大井中学校区をモデル校区に指定しました。各校の地域コーディネーターの連携を進め、中学校区単位で地域学校協働活動を推進する体制づくりを進め、また、地域や行政、様々な機関や団体などのネットワークづくりに着手し、行政内部での情報共有も進めました。

③放課後子ども教室の推進

週に1回、小学校区内に居住する地域のボランティアを中心に、外遊びや工作など様々な体験を通して安全・安心な子どもの居場所づくりを進めました。

学校及び放課後児童クラブとの調整会議を定期的に行い、交流事業の実施と円滑な運営に努めました。また、文京学院大学との連携により、学生が作成した様々なテーマの動画を児童のタブレット端末に配信しました。

④ALTの配置やICTの活用によるグローバル社会に対応する教育の推進

ALT18人を配置し、タブレット端末は、児童生徒一人一台を整備しました。国・県の学力・学習状況調査は、国・県の平均正答率と比べ、小学校は、ほぼ同様、中学校は、全教科上回りました。



### ⑤小中学校の学習環境の整備

老朽化した小学校の屋上防水、外壁、床、壁、電気設備等の大規模改修工事を実施したことにより、良好で快適な学習環境及び安全・安心な学校施設を確保しました。

また、小中学校全校の体育館に空調設備、非常用発電設備を設置するとともに、LED照明への更新、トイレ改修、床改修などを行い児童生徒の良好な学習環境の確保及び災害時の避難所としての快適性や防災機能の向上を図りました。

### ◆プロジェクトのねらい

首都直下地震の懸念や気候変動に起因する局地的豪雨など、近年大規模化する自然災害に備えるため、ハード、ソフトの両面から災害対策を強化することで、市民が安心して暮らせる環境をつくります。

### ◆前期基本計画での主な取組

#### ①水道水の安定供給のための水道施設の強靱化

災害時においても、安全で安心な水道水を安定供給するため、大井浄水場第2配水池耐震補強工事、福岡浄水場第4配水池耐震補強工事を実施し、強靱な水道施設の構築を図りました。石綿管布設替え工事においては、令和5年度末までに残延長5.0kmを目標値としていましたが、更新工事が順調に実施できたことから、残延長は約2.4kmまで減少する見込みとなり、目標値を大きく上回る進捗となりました。

#### ②新たな雨水貯留浸透施設の整備拡充

都市型浸水被害を軽減するため、西鶴ヶ岡地区において3基の雨水貯留浸透施設の整備を実施したことにより、計6基、貯留量約1,615立方メートルを確保しました。また、関越自動車道西側の亀久保大野原地区についても調整池を整備し、計3基、貯留量約29,000立方メートルを確保しました。整備された雨水貯留浸透施設については、継続して適切な維持管理を行うことにより、浸透機能の維持を図りました。

#### ③排水ポンプ車の配備

台風や集中豪雨により発生する浸水被害の軽減を図れるよう、排水ポンプ車4台を配備しました。

#### ④自主防災組織補助金の交付

自主防災組織に対し結成支援、活動支援、資機材等整備支援及び地区防災計画策定のための補助金を交付し、地域で助け合う意識を向上させるとともに、地域防災力の醸成を図りました。

#### ⑤自主防災組織の訓練等支援

地域における自主的な防災訓練、避難訓練に対し、市職員や県リーダー養成指導員を派遣して防災講話を行い、地域防災力の向上を図りました。

#### ⑥市内全避難所を開設した総合防災訓練の実施

災害対策本部、地域防災拠点及び地区対策本部が密に連携した3層構造の実効性を確認する訓練を継続的に実施しました。なお、地域防災拠点においては自主事業を実施し、関係機関との連携とともに、自助・共助の意識の向上を図りました。

#### ⑦防災施設・資機材・災害備蓄品の整備

効率的に備蓄品を管理するため、防災備蓄品管理倉庫を整備したほか、防災行政無線等の防災施設・資機材の点検、更新を行うとともに、計画に基づき備蓄品を購入するなど、災害に対する備えを充実しました。

#### ⑧災害時の通信手段の多重化

I P電話機能付き小型無線機を導入することで、災害時において災害対策本部と現場で応急復旧等を行う班が連携をとれるよう、通信手段の多重化を図りました。

#### ⑨地域防災拠点の機能強化

災害発生時の指定避難所となる小中学校の体育館にエアコン及び非常用発電機等を整備しました。また、地域防災拠点に設置された全ての防災倉庫について更新作業を完了しました。

#### ⑩福岡橋の耐震化

市の緊急輸送道路に位置づけられ、一級河川である新河岸川に架かる福岡橋について、災害の際に対応できるよう橋りょうの耐震化を行いました。

### ◆プロジェクトのねらい

「快適」や「ゆとり」を育む緑と調和した良好な住環境を維持し、魅力的な都市空間を創出します。また、商業をはじめとした地域経済の活性化を推進し、地域のにぎわいを創出します。

### ◆前期基本計画での主な取組

#### ①「『福』バル」の開催

「『福』バル」チケットを活用し、食べ・飲み歩き、ショッピングなどを通じ数多くの店舗を利用することで、新たな店舗を知って頂く目的として「『福』バル」を開催しました。これにより地元商店街等における集客を促進しました。

#### ②地域の賑わい創出

ふるさと意識を醸成するため、「上福岡七夕まつり」、「おおい祭り」を実施し、地域の賑わいを創出しました。また、ふじみ野産の新鮮な農産物の直売を通して、地元農業に対する理解と活性化を目的に、「軽トラ市」と「採れたて☆ふじみ野畑」を実施し、地域の賑わいを創出しました。

#### ③「産業まつり」の開催

毎年11月3日（文化の日）に商工業者、農業者等と多くの市民の参加のもとにふれあいの場を作ることにより、その意識の高揚を図り、地元産業の振興に寄与するまつりとして「産業まつり」を開催しました。数多くの商工業者、農業者等の出店により市内産業の活性化を図りました。

#### ④道路と公園のユニバーサルデザイン化

歩道部の街路樹の根上りによる舗装段差の解消、及び歩道乗入れ部へのバリアフリータイプ製品の使用により、歩行者等の安全な通行を確保しました。また、公園内の既存施設の改修において、整備基準に適合させながら施設に支障のないよう計画し、トイレ、水飲み、テーブル、出入口の側溝等について、バリアフリータイプの製品を使用しました。

#### ⑤地区計画などによる秩序あるまちづくりの推進

土地区画整理事業等で面整備が整った地区においては、地区計画を策定し、当該土地利用にふさわしいまちづくりを推進しました。また、地区計画で定められた地区施設道路の整備について開発相談時に、寄附採納の働きかけを行いました。

#### ⑥地区計画の策定

国道 254 号バイパスふじみ野地区土地区画整理事業施行区域に事業効果の維持と増進を図るとともに、産業拠点にふさわしい工業団地及び周辺の農地・住宅と調和する田園産業都市の形成を図ることを目的として「国道 254 号バイパスふじみ野地区計画」を策定しました。

#### ⑦大井弁天の森特別緑地保全地区の整備

市内に残存する貴重なまとまった緑地である大井弁天の森について、将来にわたって保全するため、特別緑地保全地区に指定するとともに用地取得による公有地化を行い、さらなる緑地の保全を図りました。

#### ⑧多様な団体との連携による空き家の適正管理の促進

ふじみ野市自治組織連合会との協定締結により、自治組織から空き家に関する情報提供を受けることで空き家の早期把握につながり、管理不全空き家への迅速な対応を図りました。また、(公社) 入間東部シルバー人材センターやふじみ野市資源リサイクル協同組合との協定締結により、樹木の剪定や除草作業など、空き家所有者等からの依頼を取次ぎ、空き家の適正管理の促進を図りました。

#### ⑨空き家の流通・利活用の促進

(公社) 埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部との協定締結により、空き家所有者と活用希望者とのマッチング制度である「空き家バンク」を運用するとともに空き家所有者等からの相続、売却、解体などの様々な空き家の相談に対し、迅速かつ適切に対応するため「ワンストップ相談窓口」を整備し、空き家の流通・利活用の促進を図りました。